

(研究実施に関する掲示ポスター)

2008年1月1日から2024年10月31日までに強度近視外来を受診された患者さんへ
研究協力をお願い

(研究課題名・承認番号)

病的近視患者の臨床情報と画像データを用いた人工知能モデルの開発

(承認番号：第 M2022-180 番)

(研究目的)

強度近視は全世界で約30%の有病率であり、アジア地域では80~90%の人が罹患していると考えられています。病的近視とは主に強度近視に伴い様々な眼底病変を発症している状態であり、日本において失明原因の第四位を占めています。

近年では人工知能が著しく発展し、自然言語処理や画像データの解析などに広く応用されています。2018年に米食品医薬品局(FDA)が糖尿病網膜症を検出する人工知能(AI)を用いたデバイスを初めて医療機器として承認したと発表し、医療分野での人工知能の活用も大いに期待されています。本研究は病的近視患者の予後を予測する人工知能を構築し、その早期診断や予防及び治療の一助となることを目的としております。

(研究内容)

2008年1月1日から2024年10月31日までに強度近視外来を受診された患者さんで、病的近視眼の方が対象となります。年齢、性別、屈折度数、視力、眼軸長などを含む臨床情報と眼底写真や光干渉断層計(OCT)や蛍光眼底造影検査などの画像のデータを診療録から収集し(後ろ向き調査)、病的近視患者の予後を予測する人工知能システムを構築します。

個人を特定できる情報は一切収集しません。また、研究結果の発表時にも個人情報を使用いたしません。データは学外には提供されません。研究対象者となる方に新たに費用が生じたり、診療上の不利益が起こることは決してありません。なお謝礼はございません。研究結果をもとにより良い診療及び治療に役立ててまいります。

以上の趣旨をご理解いただき、是非この研究にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。本研究への参加をご希望されない場合は、遠慮なく下記問い合わせまでお申し出下さい。お申し出後には収集したデータは破棄します。また本研究への参加をご希望されない場合でも今後の診療に不利益を被ることは決してありません。

本研究は実施責任者である大野京子宛の寄付金(番号・91AA191450 主任研究者：大野京子)を用いて行いますが、実施にあたっては、利益相反マネジメント委員会及び倫理審査

委員会で審議され、利益相反状態が存在することによって、被験者に不利益が及ぶこと、または研究の公平性に悪影響が及ぶおそれはないと判断されました。また、学会発表や論文の公表にあたっては、資金について公表し、研究の透明化を図って参ります。

(研究期間)

2022年11月12日から2027年4月1日まで

本研究は海外大学（中国・清華大学）との共同研究であるが、当該大学には患者個人を特定できる情報は一切提供しない。

試料・情報の管理の責任者：大野京子

(研究についての内容、問い合わせ等の連絡先)

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

東京科学大学病院 眼科 実施責任者 大野京子

電話 03-5803-5302 (対応可能時間帯 平日 9:00~17:00)

苦情窓口：東京科学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

電話 03-5803-4547 (対応可能時間帯 平日 9:00~17:00)